

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

鳥取県教育委員会

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
鳥取県教育委員会	特別支援学校	知的障がい	鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

2 研究課題

特別支援学校生徒の就労を促進するために、地域の実態をふまえた教育内容・方法を検討し学校間及び関係機関、地域等と連携した就労支援体制の在り方を構築する。

3 研究の概要

県内の特別支援学校生徒の実習先、就労先の開拓・確保を進めるため、小規模県ならではの地域及び関係機関と連携体制の在り方について研究を行い、就職率の向上、就労支援の充実を目指す。

県立琴の浦高等特別支援学校（以下、「モデル校」と言う。）を中心に取組を進め、地域の人材や環境資源等を活用した特色ある学校作りを進める中で、職業教育の充実を目的とした学習の在り方を検討する。

生徒が就労して働き続けるために、働く技能を身に付け、勤労意欲や仕事をする喜びを感じることができる学習及び地域の中で協働することで社会人として生きる力を育成する活動を検討し、キャリア教育の充実を図る。

就労サポーターを配置して職場開拓を図る上で、生徒の特性に合った業務や環境の企業を開拓するだけでなく、生徒の良さや特性を知ってもらい、就職後に一人一人が働く姿をイメージして雇用につなげていくことができる取組を検討する。

4 研究の成果

モデル校は県内初の高等特別支援学校であり、平成27年度末に初の卒業生を出し県内でもその進路先に注目が集まっていた。特に今年度は関係機関ともより強く連携を図り、企業への啓発や企業情報の提供を行ってきた。全県から関係機関が出席する障がい者雇用に関する会議においても、モデル校の取組や3年生の進路状況を情報提供し、協力を依頼してきた。また、ハローワークと連携し最新の障がい者求人情報を県教育委員会に送付してもらい、県内の全特別支援学校に情報提供してきた。

モデル校における職業教育の取組として地域の事業所等に協力していただき専門教科の学習として実習ができる実習先を10箇所以上確保することができた。主に2、3年生が中心に出かけ、現場の緊張感ある雰囲気の中で業務等を学ぶことができ、学びを積み上げることができている。また、働く姿を地域の方々に見ていただくことで、知的障がいを有する生徒に対する理解も深まってきた。

就労サポーターによる職場開拓は生徒の実態に応じた実習先を確保することができた。特に2、3年生の実習先については就労も見据え、進路担当教員と検討しながら準備を進めることができた。また、啓発活動においては、昨年度に引き続きタブレットを使用して動画による生徒の紹介等を行った。見ていただいたところについては様子が分かりやすいとの評価であった。

このような取組を進めていった結果、最終的には高等部3年生35名中34名が企業への就労を決めることができた。

5 課題と今後の方策

モデル校の地域資源を活用した取組について、今年度は3学年が揃ったばかりであり、地域への活動に参加できるものはなるべく参加するようにしているのが現状である。どの学年においても基本的なことを学び直すことも生徒たちにとっては必要であるが、今後はその内容について系統性等も踏まえながら学校外の実習と校内の学習のバランス等についても検討していきたい。さらには、事業所との関係を深めていき、生徒がより主体的に実習に出かけることができるような取組についても検討していく。

職場開拓及び就労に繋げるための取組について、今後はこれまで行ってきたタブレットによる紹介等の効果を分析し、より有効な活用を考えていきたい。また、来年度は本校卒業生が就労しているので、卒業生の情報についても有効に活用していき、障がいのある生徒への理解を進めるような取組を進めることができるのではないかと考えている。

※鳥取県においては、法令及び条例・医学用語・固有の名称等の表記を除き、障害を「障がい」と表記